



発行所 龍共印刷株式会社
 編集人 龍共印刷株式会社
 印刷所 龍共印刷株式会社
 社址 龍共印刷株式会社
 電話 22-5353

人口	6,439人
男子	3,116人
女子	3,323人
世帯数	1,817戸
(平成3年12月末現在)	

地域づくりに求められる視点

—新企画 市民大学講座ひらかれる—



竜丘地区市民大学講座は、今年で十三回目を数え、その時の話題・問題などについて講師を迎え地区市民の見識を広げるために役立ってきました。
 本年度は昨年に引き続き、再度「地域づくり」を取り上げ、全四講座が開催されました。

第一講は一月二十六日に竜丘小学校で講師に滋賀県環境生活協同組合理事長の藤井純子先生を迎え「暮らしの中の環境保護」をテーマに開催されました。藤井先生は、琵琶湖の水質浄化に取り組みられ、遠くモンゴルまで家族で旅をし、自然と同居した生活を身を持って体験されました。それらの経験から、私達にできる身近な環境保護運動について話をされました。

第二講は一月三十一日に竜丘公民館において、講師に上久堅風土舎代表の長谷部三弘先生を迎え「地域づくり活動を広げるために」をテーマに開催されました。

第三講は二月十二日に桐林区民センターにおいて、講師に日本精神科学研究所所長の松本文雄先生を迎え「子供の心がみえますか」をテーマに開催されました。

松本先生は、カウンセラーとして多くの事例に携わった経験から、親や教師のあり方、医師やカウンセラーが果たす役割などについて、具体的な事例をあげながらお話をいただきました。

第四講は二月二十三日竜丘公民館において、「地域づくり放談会」が開催されました。

公民館長のあいさつに続いて、地域開発環境、福祉、健康、教育文化、産業経済自治の各専門部会から基調報告が行われ、テーマに沿って放談がされました。

今回の市民大学講座は、小学校PTA、育成会や、地域基本構想策定委員会との共催という新しい企画で開催されました。

そのために、大勢の受講者が集まり学習の機会が増え、地区民の見識を広めるのに大いに役立ちました。

また、会場を移動して行ったことにより、受講しやすい環境が整えられました。しかし、日中の開催となったこともあり、全講座を受講した方が少なく開催時間については、夜間での開催を望む声も多く聞かれ、次回への課題を残しました。

第四講は新春放談会と合わせて行いましたが、講座に組み込んだことにより参加者が限られてしまったので、新春放談会は独自に開いてほしいという声も聞かれました。

私共消防団では、三月一日から七日まで、春の火災予防運動を実施しました。この時期は、気候も穏み空気も乾燥し、春一番と言われるように強風が吹き非常に火災の発生しやすい状況になっています。他地区においては、林野火災が多発しており、前述の状況がその原因となっている事が、おわかりになると思います。

この時期の、御家庭での火の取り扱いはもちろんの事、屋外でのたき火等は充分注意して頂きたいと思っております。

当竜丘地区は、平成元年

鉛筆について

長年の功績に 勲五等瑞寶章受章 橋本玄進氏

今回の「鉛筆について」は、昨年の叙勲において、長年の社会福祉の功績が認められ「勲五等瑞寶章」の栄誉を受けられた、開善寺住職、橋本玄進氏の受章祝賀会を取材させていただきました。

三月七日(土)竜丘公民館で、午後二時より式典が始まり、来賓の田中飯田市長などから、お祝いの祝辞がありました。

橋本住職は、大正三年八月三日生まれ、現在満七十才。昭和十八年八月に、

今年に巨る専門道場の修業を経て開善寺の住職に就任されて以来、現在まで四十八年間にわたります。その間、信仰深い高徳な人格から、地域住民の信頼も大変厚く、住職の傍ら、昭和二十一年十二月民生委員に就任され、昭和五十六年臨済宗妙心寺派総務部長(専従)に就任する迄の三十五年間信望ある活動を進めるとともに、飯田市竜江地区民生協議会総務、飯田市民生委員会副会長、同会長を長年務められました。

又、竜丘村教育委員に選任され、更に合併後の昭和三十三年より十九年間、飯田市教育委員となり、このうち八年間は、同委員長を務めました。

尚この間昭和三十一年四月より三十四年間は、竜丘公民館長を務められていました。

この他にも、二十五年間擁護委員として貢献し、昭和三十三年より四十年間、里親として十七名の児童を養育し社会に送り出しました。



橋本玄進氏 勲五等瑞寶章受章

更に伸ばそう 無火災を!!

分団長 代田 史郎

より現在まで二年半に渡り無火災が続いています。今年の出初式において、飯伊無火災章を頂きました。これもひとえに、地区民の皆様への防火に対する意識の高揚と、消防団員による予防消防活動の努力の賜物だと思っております。

当面は三年を一つの目標として、これからも無火災という金字塔を、竜丘地区の皆さんの御理解と御協力によって、継続出来ませう様に消防団員一丸となって、一層予防消防活動に努めてまいります。

よろしく御協力を御願いたします。

成人おめでとう!

去る一月十五日に、今年も成人式が盛大に行われました。竜丘では一〇七名の方々が成人式を迎え、この日は朝早くから竜丘小学校へと集まって来られました。

成人の皆さんは、それぞれ素晴らしい晴れ着に身を包み、皆互いに目を細めていました。又、久しぶりに再会した同級生達との会話も思ったり嬉しそうでしたが、少し寂しさも漂う小学校の玄関前でした。

小学校ではまず記念撮影を行い、次に田中公民館長、伊原自治会長、来賓の方々からの祝辞が披露され、最後に竜丘青年会の皆さんによる和太鼓の威勢の良い演奏で、成人された方々の門出を祝いました。その大きな太鼓の響きに皆圧倒された様子でした。



文化会館への出陣太鼓

「子供の頃は川遊びが一番楽しかったなあ。」という人は多いはず。天竜川の流れば、地区の人々の心にどれだけの潤いを与えてくれたかわからない。

器を整備していくことも大切なことだが、そこを流れる「水」は、人の心の清らかさを映し出すものであってほしい。

ヤブ呟

いつも何気無く眺めている天竜川。またそこへ注ぎ込んでいく大小の支流。私たちの生活に欠かすことのできない「水」は、その殆どが川から取り入れられている。その川を一番汚しているのが、私たちが流している生活雑排水である。

川には自然の浄化作用というものがあがるが、今ではその許容量をはるかに超える量の汚染物質が流れ込んでいると考えられ、いわば現在の河川は、我々人間の虐待に悲鳴をあげながら、徐々に死に向っている状態なのではないだろうか。

生活雑排水の浄化といえ、真つ先に下水道の整備を思いつくが、そのために取水された分だけ川の水は減少する。当然のことながら、川の持つ浄化能力は低下していく。

こうした問題を解決するには、汚れた水を各家庭にて処理し、地下浸透を経て川に返すことが必要であり、自然を傷つけない方法だと考えられる。

飲料水が川から取り入れられている以上、おいしい水を飲むには、まず河川の浄化から始めなければいけないのだが、おいしい水を飲みたいために浄水器を取り付ける人はいても、排水に気を使っている人は少ないだろう。

多くの問題点はあろうが、「子供の頃は川遊びが一番楽しかったなあ。」という人は多いはず。天竜川の流れば、地区の人々の心にどれだけの潤いを与えてくれたかわからない。

器を整備していくことも大切なことだが、そこを流れる「水」は、人の心の清らかさを映し出すものであってほしい。

土取り、盛土で40haの平地

治水対策事業起工式

全国的にも例を見ないという天竜川治水対策事業は土取り運搬道路も姿を見せ、桐林上段開発との二人三脚は約十年で四〇ヘクタールの平地をつくり出すという。

去る二月二十四日、天竜川治水対策事業の起工式が行われました。様々な問題の中で、いろいろな論議が交わされ、その中でこぎ着けた一つの出発点となりました。

この竜丘、竜江、川路の三地区にまたがる工事は、過去に何度かあった水害を防ぐために計画された工事です。

今は、桐林上段に焼却場が完成し稼働を始めたほか、グラウンドができ、土取りに伴う道路が姿を見せ、行政側の誘致によりいくつもの企業の新工場も建ち、大きく変貌してきています。

そして、この治水対策事業が始まりますと、竜丘地区に於いては新たな築堤が行われ、高さ六メートル、面積にして二七・二ヘクタールの盛り土が行われ、埋め立て用の土を取った桐林上段には、一四・七ヘクタールの山が削られ、五箇所七・五ヘクタールの平地が出来上がる予定です。

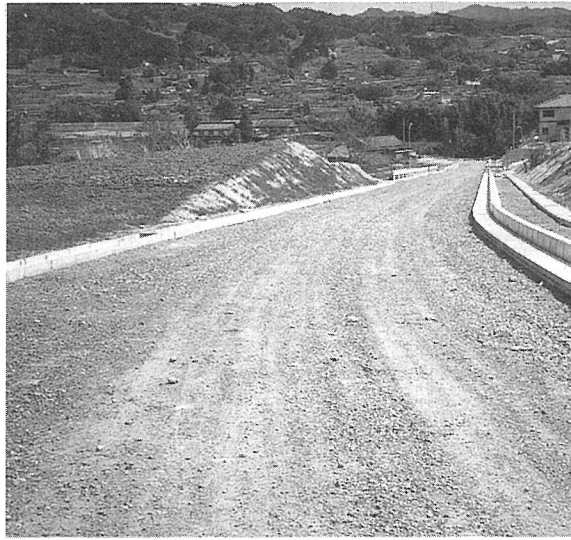
また盛り土に伴ってJR飯田線は新たにできる堤防沿いに移設される計画です。

この辺りまでがおおよそ私達の耳に入っている概要だと思えます。

しかし、盛り土が終わった後の面的整備についてはどうなっているのでしょうか。

現時点では区画整理事業による整備と、土地改良整備事業による方法が検討されています。竜丘地区に於いては、耕地が少ないことから区画整理による整備が有力で、図面が出来つつあるということです。

しかしこれについても計



工事が進む盛土運搬道路

で「といて遠くから訪れ、自然の姿勢で帰って行き、受験場に向うこの人達を神々しい気持ちで見送ったものでした。

人間関係の基底は、実はこのような中にあるのではないのでしょうか。

時は春、竜丘の皆様のご健勝とお幸せを心からお祈り申し上げて御礼いたします。

松本先生は、日本精神科学研究所長、NHK文化センター専任講師など幅広く活躍中で、竜丘市民大学講座では第三講の講師として、青少年の非行問題を中心に、大変興味深いお話しを講演して頂きました。

画段階で確定というわけではありません。

また土取場後の平地についても、利用については建設省の用地買収に伴う代替地とされるほかいろいろ検討がなされることになっていきます。

その他、堤防の外側の土地利用についても親水公園にするとか、サイクリングロードを作るとか、テニスコートにすることなどが考えられているようですが、これもまだ決まっています。

治水対策部では、平成五年末には一箇所へ土を入れたいそうで、平成六七年には本格着工したいそうです。堤防の方は建設省の管轄なので連携しながら十年位が目安になるだろうというのですが、次の世代に残しても恥ずかしくないように、地区民の創意でより良い利用を考え、行政側まかせではなく、私達が常に関心を持つ事がこれからも重要となっています。

青空の下で手作りの野菜

「飯田ふれあい農園」

桐林安城常会では平成二年度に、地域マネージメント事業のモデル集落に指定され、地域づくりを進める中で飯田ふれあい農園(桐林園)を塚原二子塚古墳西側に開園することとなりました。

モデル集落には、毎年十五地区が指定され、平成三年度には、上川路町並地区が指定され、牡丹の里づくりが進められています。

飯田ふれあい農園は、地権者六人、六十五アールの桑園を、百八十八区画(一区画約三十平方メートル)に分割し、駐車場、水道施設、あずまや、簡易トイレ、物置などが整備されます。

これらの造成、整備費用には、構造改善事業や市民農園整備事業を利用し、市民農園法による長野県の一号モデル園となりました。

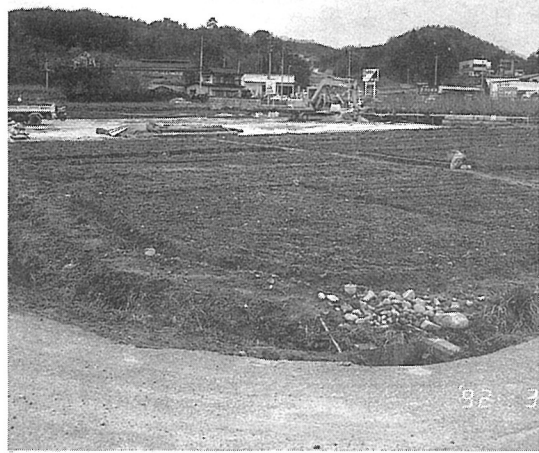
園長の原恒さんは、多くの人に農業を理解してもらい、土に親しみ、作る喜び、貴さを知って欲しい、などを目的に進めていきたい。又、立地条件が良い場所なので今後拡大していけたらと語っていました。

利用者との交流を重ねながら、収穫祭などのイベントも考えていくそうです。

「広報いいだ」などで募集した利用希望者は地区内外から集まり、「子供と一緒に、太陽の下で土をいじりながら、自然と親しみたい」といった希望者や、KOA(株)などの団体の申込もありました。

農作物の栽培指導や、種苗その他の必要な資材の斡旋は農協が協力するそうです。

農園利用者による区画抽選会も三月八日に行われ、四月十二日に開園式でした。塚原古墳群の中にできた「飯田ふれあい農園」に来る人達の歓声に、古代の人達もびっくりするのではないのでしょうか。



ふれあい農園開設地

オンスイ

オンスイで春到来

今年の時又初午はだか祭りは、三月八日の日曜日に盛大に行われました。当日はともとも三月上旬とは思えない暖かい陽気で絶好の初午日和となり、長石寺境内には午前十一時頃から多勢の見物客が集まりました。

午後一時、本堂の前に勢揃いした約八〇名の大人みこしの担ぎ手達が、住職の祈願の後、「エイ、エイ、オー」の掛け声と共に、それぞれのみこしをかついで町中へ練り出しました。

「オンスイ、オンスイ」独特の掛け声も威勢よく町はずれまで練り歩いたみこ



若駒は水しぶきをあげて

しは、天竜橋の三叉路で、「叶水(カノウスイ)の儀」「長老松の儀」を三人の僧侶により厳かな雰囲気の中で取り行いました。

今年も東京の放送局が取材に訪れたことや、アマチュアカメラマン、ビデオレポーターが増えたこともあってか、「演ずる側」も例年以上にハッスルしていた様に感じました。

また、時又港での舟下り会社の川開きでは、千代の中学生演歌歌手による歌謡ショーも同時に行われ、その見事な歌声に盛んな拍手が送られていました。

はだか祭りもいよいよクライマックスを迎え、天竜川原へ練り降りたみこしは、厄年の皆さんの厄払いの後、次々と威勢よく少し増水気味の川の中へときおって行きました。雪解け水も混じり、冷たさを通り越して痛さを感じる水でしたが、どのみこしも最後まで元気がよく担ぎ通し、祭りを盛り上げました。例年より早い初午も終わり、竜丘の春もいよいよ幕開けです。

力自慢集合!!

綱引大会結果

去る二月八日常会対抗綱引き大会が、男女合わせ四十三チームの参加により盛大に開催されました。

ひと頃の綱引き熱も若干下火になりましたが、それでも練習を積んだ常会もあるなど、力自慢が集合し熱戦が繰り広げられました。

試合は男女各四ブロック

予選を行い、一位のチームによる決戦リーグで優勝を競いました。男子は上川路中央、町並、桐林南、久保尻の中から上川路町並が、女子は駄科下平中央、桐林南、久保尻、時又十六の中から駄科下平中央が優勝し、Cブロック大会に出場しました。

館報に見る昭和史

予約注文ありがとうございました。予約切らせて頂きましたが、注文忘等ございましたら公民館へ連絡を。

NHK松本支局のスタジオで月に三回(第一、第三、第四土曜日の午後)私の講座が開かれています。

其処に一月の二回目頃から高三や浪人中の学生がよく顔を出しています。ご当地飯田を始め、小諸、横浜、千葉、新潟、秋田、盛岡、そして京都など各地から一度会ったことのある人が最も多いようです。

理由の殆どが「大学受験に行くので一度私の顔をみて、心を安定させて向う」ということです。

中には高二で一年間不登校だった生徒が、復学の手続きに行くのに勇気を付けて、そして今、次々と合格の

縁ある人の

エネルギーに

なりたい。

松本文男



喜びの声を知らせる電話の時期になってきています。人間関係の学問やカウンセリングを業とする私にとって、果てしない幸せの思いに浸るのは、こんな状況で緊張の極限にある時、その間に人間の基底は、実はこのような中にあるのではないのでしょうか。

時は春、竜丘の皆様のご健勝とお幸せを心からお祈り申し上げて御礼いたします。

松本先生は、日本精神科学研究所長、NHK文化センター専任講師など幅広く活躍中で、竜丘市民大学講座では第三講の講師として、青少年の非行問題を中心に、大変興味深いお話しを講演して頂きました。